

エコパルなごや

春号 VOL.54

かんきょうをたのしく学ぶ

特集 生物多様性について考えよう(Ⅱ)

名古屋市で「COP10(生物多様性条約第10回締約国会議(国際会議))」が開かれるまであと半年になりました。

今回も前回の冬号に引き続いて生物多様性についてのお話です。

現在この地球上では、生物多様性が失われ、野生生物が減ってきているといわれています。それはいったいどうしてなのでしょう？その原因やそれらの生物を守っていくには、私たちはどうしたらいいのでしょうか？

前回の冬号では、COP10、生物多様性とはどういうことかについてお話しました。今回は、生物多様性を守るためにどうすべきかを考えてみましょう。



いろいろな話題お届けします。

特集

生物多様性について考えよう(Ⅱ)

なごや環境大学ガイドブック2010春
「地球環境学2010」講座の紹介

エコパルNEWS パタパタ図鑑、ビデオライブラリーの紹介、マンスリー企画展示の募集

生物多様性について考えよう(II)

最近私たちの周りで自然が感じられる森や林などが少なくなった。

そのためなのか、昔は見られた鳥や、昆虫が見られなくなった。

逆に昔は見たこともなかった外国から来た生物が見つかった。

このように私たちの生活の中で見られる生物の社会は変化してきています。

そして今でも私たちが知らない間に少しずつ変化してきています。

どうしてこうなってきたのでしょうか？その原因は何でしょうか？

どうしたら生物が減少するのを防げるのでしょうか？

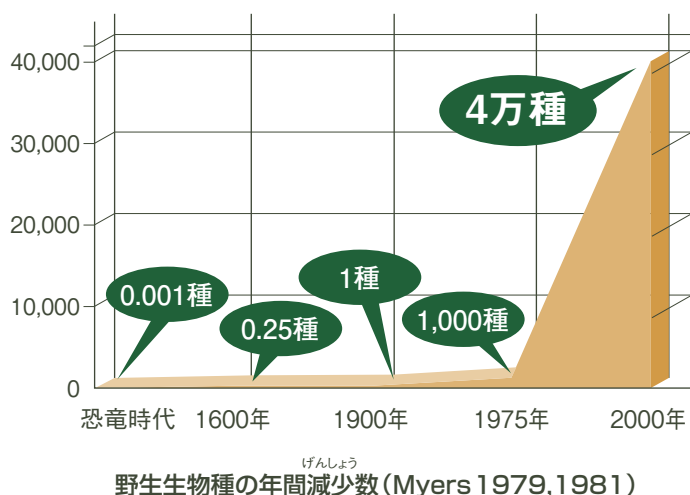
野生生物は減っている

6500万年前の恐竜の絶滅など昔から、野生生物の絶滅はありました。でも生物の絶滅するスピードは、今どんどん速くなってきています。

恐竜時代のように、絶滅のスピードが、1000年に1種絶滅するというような穏やかなスピードであれば、その生物と関係がある生物も他の生物と新たな関係を結ぶ時間的な余裕もあり、生き残る手段を見つけることもできるはずですが、しかし、その環境の変化に適応することができないほどスピードが速ければ、生存するために必要な共生や食物連鎖の相手となる生物を見つけることができません。

そのため、一つの生物が絶滅すると、その絶滅した生物と関係を持つほかの種類の生物の生存にも影響し、次から次へとドミノ倒しの様にさまざまな種類の生物を巻き込むことで、生物多様性は崩れていきます。

そして、今確かに、地球上では、野生生物は減ってきています。



生物多様性を守らなければ、野生生物は守れない

生物多様性を守るということは、食う、食われる、共生するという、いろいろな生物間の関係を保ち、その生物間の関係を支える生息環境のもとで生物群集バランスを守ることです。その結果としてたくさんの種類の野生生物を守ることができるということです。

【生物群集バランス】それぞれの地域には動物、植物、菌類など様々な生物が生息しています。これを生物群集といいます。この生物群集の組み合わせは、不規則なものでなく、同じような環境ならば、ある程度共通な組み合わせ(バランス)が存在します。

でも、今生物群集バランスが崩れてきています。

●生息環境(場所)の減少(土地開発)

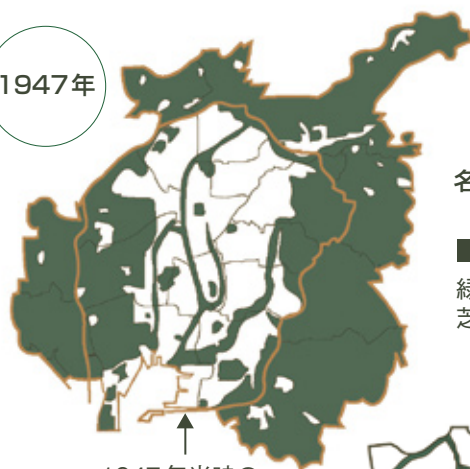
人間は、もともと森林などに生息する野生生物を食料として採取してきました。

そのころは、自分たちの自然からの恵みを保つために、野生生物の生息環境を守ってきていました。

しかし、人間が定住するため、人間が好む食料を栽培する農業が始まると、森林などからの食料の採取が減り、森林は、もっぱら、木材、燃料などの供給場所としてみられるようになり、森林は開墾され野生生物の生息場所の減少が始まりました。

その後工業の発達、宅地化に伴い、野生生物が生き残っていた農地までもが減少し、ますます自然の残された生息環境は減少してきました。また、工業化が進むにつれ、水や空気汚染などの環境汚染が進み、生物が住めない環境にもなってきました。

1947年



名古屋のみどりの推移

■ 緑被地
緑被地は樹林地、
芝・草地、農地、水面

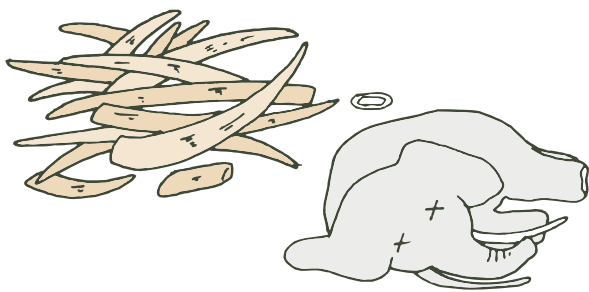
1947年当時の
名古屋市域

2005年



●乱獲

商品としての価値があり、代償も要らず手に入れやすいというものや、逆に手に入りにくい希少で人気があるものを、売れるからという理由でどれだけでも採ってしまう。そのために繁殖が不可能となるほど生存する数が減っている生物がいます。



●侵入(外来種の放流)

食料や毛皮用に海外から輸入して養殖していた生物が、不十分な管理や飼育を放棄した結果、施設から逃げ出したもの、海外から輸入した生物をペットとして飼育が困難になったために遺棄したもの、釣りなどの趣味や天敵の役割を期待して海外の生物を移入したもののなどがあります。

その中で生活力が強く、新しい環境に適応したものは、野生化し、天敵がいななどのよい条件のもと、繁殖することで、従来からすんでいた他の生物の生存に多大な影響を及ぼしています。



●自然災害(大雨、干ばつ、病原菌の流行)

台風や山火事などの一時的な自然災害や、干ばつなどで水不足になり、生息環境が壊されたり、また、新たな病気が流行し、それに感染した生物が絶滅することがあります。



●そして地球温暖化も…

気温や海水温があがれば、その生息条件に合わなくなった生物は生存できません。

また、気温や海水温があがったことで、今まで生息できなかった食物連鎖上の上位の生物や、エサを奪い合う生物などが侵入、繁殖することにより、従来住んでいた生物の生存が脅かされています。



誰が生物群集バランスを崩すのか？

生物群集バランスを崩す原因のほとんどに人間が関与しています。

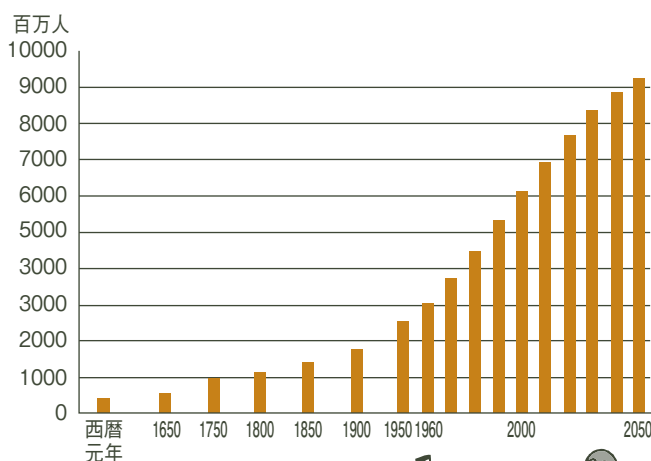
その一方で、ゴキブリや、蚊、カラスなど人間の生活に依存して増えている生き物もいます。

本来は、これらの生き物も生物群集バランスの中で制御されるはずなのに、その制御を止めているのは私たち人間なのです。

このような野生生物の増減に影響を与えている人間は増えています。その増えるスピードも速くなってきました。

世界人口の推移

「人口統計資料集2008」：国立社会保障・人間問題研究所をもとに作成



経済的な理由も生物多様性に影響する

人間が管理する林業、畜産、農業、漁業においても、バイオテクノロジーの発達に伴い利潤優先、生産優先の社会の中で、消費者の好み、生産の効率などの経済的な理由から、画一的な品種になりつつあり、多様性が失われてきています。

日本の国土の7割弱が森林ですが、そのうち4割は、商品価値の高いスギ、ヒノキの人口針葉樹林です。しかし、このスギやヒノキの樹林地も間伐などの人の管理が不足し、衰退してきています。

また、毎日私たちが食べているお米も、日本の水稲うるち米品種別作付け状況を見ると、8割強がコシヒカリまたはコシヒカリの遺伝子を持っている品種です。

生物多様性の環境が絶滅を防ぐ

生物は、生息環境、えさの確保など環境条件に適応したものが生き残る自然選択によって進化すると考えられています。

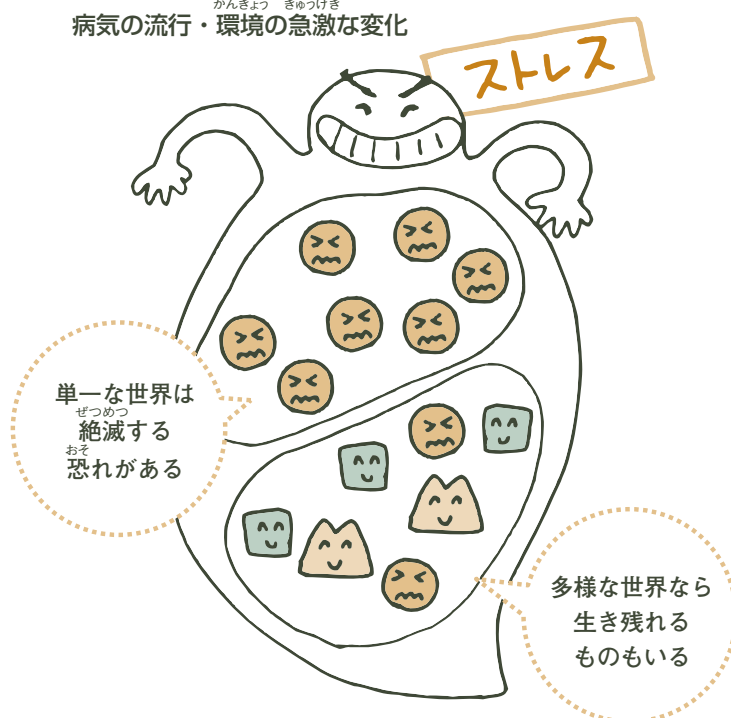
また、生物多様性は、壊すのはたやすいが、壊された生物多様性を復活させるのは非常に長い時間が必要となるといわれており、いったん壊してしまうとなかなか回復しないものなのです。

生物多様性が維持されるためには、それぞれの生物が、自然の作用のもとで周りの生物と共存共生し、また、競争することによりバランスをとりながら生活していることが必要です。

また、様々なストレスに対応し、変化する環境に適応する面からも、同一の性質を持つ生物群よりも多様性を持った生物群の方が生き残りやすいと考えられています。

これは、ある時点で環境に変化が起きたとき、すべてが同じ遺伝子を持ち、同じ性質のものであれば、適応できるかできないかのどちらかですが、多様なものであれば、そのうちのどれかが適応し生き残る為の選択肢が多いからといわれています。

病気の流行・環境の急激な変化



生物多様性の重要性を理解し、 環境に配慮した行動を、 気がついたものから実行する

私たちの毎日の生活の中で生物多様性を守るためには、ペットとして自分で飼っている生物を、愛情と責任を持って飼うということはもちろん、庭やベランダなどに花や実のなる植物を育て、昆虫や鳥などと触れ合うことなど、身近な生物を大事にすることもいいことです。また、多くの生物の犠牲のおかげで毎日食べることができる食品をごみにしないことが、地球上の生物多様性を守ることもつながっています。

さらに、エネルギーの節約、自動車使用の抑制など日ごろの身近な環境に配慮した行動は、地球温暖化防止や環境汚染の改善となり、生物多様性の保全につながっていると考えても良いのです。

自然の破壊は早く、 その回復には長い時間がかかる

今の私たちは、日常の生活の中で便利さと効率さを求めることに慣れ、すぐに結果・結論を求めすぎているのではないのでしょうか？今までの様々な環境問題を見ても、いったん壊した環境を取り返すのは、多くの費用と時間がかかるものなのです。

生物多様性を守ることは、今年COP10があるから大事なのではないのです。

もちろんCOP10が終わったら、それでおしまいになるものでもないのです。

生物多様性を守っていくことは、私たち人間がこの地球上で生き残るための永遠の重要なテーマなのです。地球上の自然が壊れれば、そこに住む多くの生物は生きていけません。そしてその生物の恩恵を多く受けている人間も生きていくことができません。

私たちは、それを理解し、地球上で生きる一つの生物として、自然の様々な現象を謙虚に受けとめ、恐れうやまう心を持って生活することが重要です。そして10月に名古屋市で開催されるCOP10は、私たちができることから実行に移すいい機会なのです。





なごや環境大学ガイドブック2010春 紹介

「まちじゅうがキャンパス」を合言葉に名古屋市各所で開催している「なごや環境大学」では、地球環境問題から身近な自然観察まで幅広い分野の講座を展開しています。講座の内容、スケジュールについては、ぜひこの一冊をご覧ください。

エコパルや区役所、図書館などで入手(無料)できます。詳細はお問い合わせか、「なごや環境大学」ウェブサイトをご覧ください。



地球環境学 2010 参加者募集

地球環境学は、なごや環境大学のテキスト「なごや環境ハンドブック」をベースに、多彩な講師により地球環境問題をわかりやすく学ぶことができる講座です。地球環境問題を初めて学ぶ方にも、新たな情報を得たいという方にも満足いただける講座です。

《募集人数》70名(第1回は300名)

《受講料》300円(初回無料)

《申し込み方法》電話、ハガキ、FAX、E-MAIL でなごや環境大学実行委員会事務局(下記)へ

日程／会場		テ　　マ	講　　師
第1回	5月15日(土) 13:30～15:30	自然に学ぶ粋なテクノロジー～どうして地球環境問題は起こったのか～ 生物多様性と地球環境問題がテーマ。自然は私たちが見習うべきテクノロジーの宝庫。人間活動が肥大化した事による地球環境問題にこのテクノロジーをどのように活かしていけばよいのでしょうか?	東北大学大学院 環境学研究科教授 石田 秀輝
	伏見ライフプラザ		
第2回	5月29日(土) 10:00～12:00	魚から考える「食」の問題～環境記者の取材メモから～ 世界の海から様々な魚が食卓に上る日本。日本人が毎日のように大量に食べている魚が危機的な状況にあることを、知っていますか? 生物多様性と食料問題を学びます。	共同通信社編集員 井田 徹治
	伏見ライフプラザ		
第3回	6月12日(土) 10:00～12:00	失われる自然を守るために～世界の森林と国政政治・経済～ 世界の森林問題を学びます。地球上の森林が減少、劣化している中で、どのような取組が行われているのでしょうか? 気候の変動にも生物多様性にも影響を及ぼす重要なテーマです。	名古屋市立大学大学院 経済学研究科 准教授 香坂 玲
	伏見ライフプラザ		
第4回	7月3日(土) 13:30～15:30	持続可能なエネルギー社会実現のために 地球温暖化問題は、エネルギー(化石燃料)の問題であります。持続可能なエネルギー社会を実現するためには、どうしたらよいのでしょうか? 日本のエネルギー政策は? エネルギーをテーマに学びます。	特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所 代表 飯田 哲也
	伏見ライフプラザ		
第5回	7月10日(土) 13:30～15:30	地球温暖化問題を学ぶ～素朴な疑問、難問、解決します～ 様々な情報が溢れる地球温暖化問題。今、科学的に分かっていることは? 国際政治で問題になっている事は? そもそも地球は温暖化しているのか? など、疑問を解決する講座です。	気候変動に関する 政府間パネル(IPCC) ビューロー委員 平石 尹彦
	伏見ライフプラザ		

お申込み
お問い合わせ

なごや環境大学実行委員会事務局(エコパルなごや内)
TEL/FAX 052-223-1223 [メール] jimu@n-kd.jp



エコパルの施設紹介

パタパタ図鑑

最新の名古屋の環境情報などを分かりやすく解説する、移動式のパネル展示物だよ。現在は「なごやの環境」を特集したパタパタめくれるパネル本と、地球環境問題についてのスライド式のパネルになってるよ。



ビデオライブラリー

ビデオの棚から自由に取り出して見たり、図書ライブラリーの「ビデオをさがそう」でビデオを検索して観る事ができるよ。気になるビデオがあったら観てみてね。



マンスリー企画展示の募集

エコパルなごやでは、学校やNPO、企業など、日頃から環境にやさしい事業展開をしている、様々な団体の発表の場・情報発信の場として「マンスリー企画展示」を定期的に行っています。出展者と来館者の双方が情報を共有し、環境問題をより身近に感じて、更に興味を持ち、環境にやさしいライフスタイルへと発展していくことをねらいとしています。

1ヶ月間、パネルや実物等を展示して活動を紹介したり、展示期間中に、施設内でワークショップを行ったりできます。皆さんも、出展してみませんか。詳しくは、右記連絡先までお問い合わせください。

問合せはコチラまで！

名古屋市環境学習センター
(エコパルなごや)

Tel : 052-223-1066
Fax : 052-223-4199

E-mail : a2231066@kankyokyoku.
city.nagoya.lg.jp

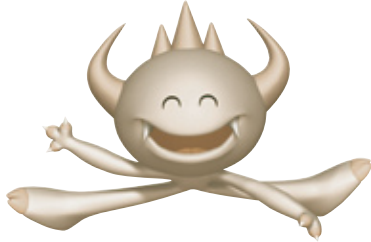


マンスリー企画展示



エコパルなごやでは、環境問題に積極的に取り組んでいるNPOや企業、学校などの活動を「マンスリー企画展示」として月替わりで紹介しています。

※出展予定は、変更となる場合がありますので、ご了承ください。



4月

出展者：株式会社 エステム
出展内容：「水」についての展示や、環境をテーマにした写真展示を行います。

5月

出展者：名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会
出展内容：フェアトレードについての、絵本やワークショッププログラム、子ども達の描いた絵などの紹介をします。

6月

出展者：もくもく楽舎
出展内容：自然木を使って、昆虫をモチーフにした木工細工の展示をします。



エコパルなごやは、ゲームやクイズ、工作など、いろいろな体験をしながら、環境にやさしい行動へのきっかけをつくることです。社会見学や団体行事など、環境学習の機会にエコパルなごやをぜひご利用ください。もちろん個人でも自由に入れます（入館は無料）。

※団体予約など、くわしくはエコパルなごやまでお問い合わせください。

ワークショップ

楽しいエコクラフトや実験をとおして、環境にやさしいライフスタイルを発見します。

相談カウンター

環境学習に関するさまざまな相談ができます。

環境情報コーナー

インターネットや図鑑ソフトを使って、環境に関するいろいろな情報を集めることができます。

ビデオライブラリー

環境に関するビデオを自由に観ることができます。

バーチャルスタジオ

環境オバケ「コバちゃん」のトークで、ドキドキ、わくわくの「生放送」がはじまります！

EXPO エコマネーサテライト

EXPO エコマネーポイントをためたり、たまったポイントをエコ商品に交換したりできます。



企画展示

月替わりで展示される最新の環境情報で新しい発見を。

クロマキースタジオ

地球上の美しい自然や生き物たちの映像「アースビジョン」や、動物たちと一緒に写真が撮れる「クロマキースタジオ」を体験してね！

図書ライブラリー

環境に関する書籍が豊富にそろい、パソコンで専門家の話も学べます。

他にも環境について学べる施設があるよ！

名古屋市リサイクル推進センター

名古屋市リサイクル推進センターは、不用品の交換をすすめたり、3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再生利用）に関する図書を貸出したり、みなさんが3Rを進めるためのいろいろな手助けをしています。

所在地 〒460-0011 名古屋市中区大須四丁目11-15先 地下鉄上前津地下街
アクセス 地下鉄「上前津」駅 名城線北改札口を出てすぐ
電話 052-251-5300 FAX052-251-5308
E-mail recycle@ppp.bekkoame.ne.jp
URL http://www.nagoya-recycle.or.jp/
開館時間 午前10時～午後6時
休館日 毎週月曜日、年末年始（12月29日～1月3日）

名古屋市環境学習センター

エコパルなごや

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目23番13号 伏見ライフプラザ13階（地下鉄東山線・鶴舞線の伏見駅6番出口徒歩5分）

■開館時間／午前9時30分～午後5時 ■入館料／無料
■休館日／毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は直後の平日）、年末年始（12月29日～1月3日）

お問い合わせ TEL 052-223-1066 FAX 052-223-4199

http://www.ecopal.city.nagoya.jp/ E-mail: a2231066@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp



この情報誌は、古紙パルプ配合率70%・白色度70%の再生紙を使用しています。

